



お問い合わせ先

Mark Wilton

CIP4 Education & Marketing Officer

CIP4 Organization

Email: mark.wilton@kodak.com

Phone: (+1) 604-451-2700 Ext. 6484

CIP4、キー商品の標準認証を更新

東京 (2007年9月21日) — The International Cooperation for the Integration of the Processes in Prepress, Press and Postpress (CIP4) は、JDFバージョン1.3仕様のICS' (Interoperability Conformance Specifications)相互運用性仕様セットを発表致します。

PIA/GATFで管理されている現行のJDF商品認証テストは、ICS'ドキュメントの中でも世代の古い、JDF 1.2 ICS'で構築されています。ICS'は、JDF仕様の臓器的な集合体で、JDF対応の印刷システムとソフトウェアに最低限必要なものです。それぞれのICS'は、生産工程や印刷作業や工程作業を処理している、MISからプリプレスICSまたは、プリプレスからコンベンショナル・プリンティングICSなどのシステムを構成・管理をしているシステム間のインターフェイス専用です。

これらの新規更新は、ICSの基礎となる文書、ICS構築ドキュメントを含みます。ICS構築ドキュメントが含むものは、Base ICS (全てのJDFシステム対応)、ベーシックMIS ICS (機能に関係なく、全てのMISシステムに対応)、そして新規のJMF ICSベースです。JMFまたは、ジョブ・メッセージ・フォーマットは、個々のICSメッセージに識別されるので、JDF処理の準拠レベルと、JMF処理の準拠レベルを取り扱ったり、別々に認証することができます。

PIA/GATFのリサーチ・テクノロジーの副会長であるDr. Mark Bohanは、「多くの新しいテスト・プログラム同様、本物の商品がテストを開始し、必要条件に基本的なエラーがある場合、即座に確認が取れません。」と、コメント。「JDF 1.2 ICF」においては、JDFとJFMの準拠レベルは同様でした。仮に、製品がレベル2のJDF処理をできるか認証したい場合、レベル2のJMFメッセージも認証する必要がありました。私達は、認証をしているこれらがレベル2または、レベル3の認証を必要としているのを知ったのですが、JMFの低レベルでの確認が取れず、旧ICSでのテストでは成功にいたりませんでした。

最新のICS'は、JDFに登載されている多くの特徴的要素が含まれているだけでなく、ウェブ印刷処理のより細かい分業をサポートする機能など、様々な改良が施されています。これにより、異なる印刷物の色彩が印刷に希薄なレベルでさえも、多くの作業からなる1つの印刷も簡単に仕分けことができ、新しいICSドキュメントは、多くのラインにある工程の様々なパーツを駆使して、より高性能な処理ステータス・

データをサポートします。さらに、スケジュール組み、きまりきったルーティン作業や、複雑な作業のタイミングも改良されています。JDF 1.3 ICSとして認証された商品は、多くの印刷業者様で日々起こっているより複雑なワークフローを反映した上でサポートすることができます。

新しいICSドキュメントは、開発コミュニティをより一層対応できるよう、改正されています。CIP4のテクニカル・オフィサーであるRainer Prosiは、「私達は、JDFのエキスパートまたは、印刷関連のプロではないプログラマーや開発者が利用できる実装ガイドラインを提供しています。」「新しいICSドキュメントは、より明確で読み易く、利用しやすい。」とコメント。

レイアウト・クリエイター・インボジッション(LayCrImpまたは ICS) で始まるJDF 1.3 ICS商品の準拠認証テストは、PIA/GATFの認証プログラムから直接利用できます。長らくお待たせしましたMISシステムとそのプリプレス、印刷、バインダリー・システム用のインターフェイスの認証テストは、この数週間で利用可能となる予定です。これは、JDF 1.2 ICS'とは異なり、JDF 1.3 ICS'単独でご利用可能となります。JDFバージョン 1.3 の仕様は、高レベルのMISシステムが処理・構成作業を変更できる機能を含みます。この機能は、処理特定データが、プリプレス・ワークフローまたは、プレス・ルーム・マネージメント・システムの様な部分的なレベルのソフトウェアから規定される上記の処理、構成作業で有用です。MIS systems 向けのICS'ベースのJDF 1.2 と JDF 1.3の主な違いは、現在マーケットに普及している広範囲のJDF対応のシステムが、現場のシステムと端末で相互運用可能かテストできる点にあります。

ICS'に関する詳細に付きましては、こちらのサイト<http://www.cip4.org/certification/intro.php>をご参照下さい。JDF商品のベンダー様で認証に関するご質問は、Brandon Iskey, PIA/GATF Computational Research Scientist and JDF Product Certification Program Manager, +1-412-259-1787 又は biskey@piagatf.orgまでお問合せ下さい。

About について

CIP4は印刷コミュニケーション、グラフィックアーツ業界においてベンダー、コンサルタント及びエンドユーザーを集め、そして様々な装置、ソフトウェア、周辺機器とプロセスを扱う部門関連携を達成しました。メンバーは業務定義フォーマット(JDF)、PrintTalkとプロセスオートメーションに関係がある他の標準を定義し；ユーザー要求を研究し；製品互換性をテストし；そしてJDFソフトウェア開発ツール領域を発展させる目的を持った、各ワーキンググループに参加します。CIP4についての情報は会員の詳細を含めて、組織のウェブサイト：<http://www.cip4.org>から入手可能です。又は連絡先はStefan Daun, Fraunhofer Institute for Computer Graphics, +49 6151 155 575, secretariat@cip4.orgです。全ての内容と考え方はCIP4ユーザーグループに従っており、その中に存在する知的財産CIP4の独占的財産としてCIP4に帰属します。

JDFについて

業務定義フォーマット(JDF)はグラフィックアーツ業界とその関連分野において、プロセスオートメーション及び異なるアプリケーションやシステムの融合を促進する為にデザインされた業界仕様です。JDFはまた、生産ワークフローへのビジネス・マネージメントと業務プランニング・アプリケーションとの融合を可能にします。JDFはW3C標準のXML(拡張可能なマークアップ言語)に準拠しており、インターネットシステムで異なるプラットフォームと導入済み環境の間において最大限の互換性を保証します。

さらに多くの情報は、<http://www.cip4.org>より入手可能です。